

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）

- A：十分達成できている
- B：おおむね達成できている
- C：やや不十分である
- D：不十分である

学校名	佐賀県立神埼清明高等学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	学校教育目標の「めざす生徒像」を教室の電子黒板に表示するなど、生徒への教育目標の浸透と達成に向けた取組を促した結果、3年生はそれぞれの進路目標を達成することができ、1、2年生も個々の目標を意識して取組を続けることができるようになった。学校評価アンケートでは、生徒、保護者ともに授業や学校行事等について概ね高い評価を得た。現在行っている総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築に引き続き取り組み、全ての教育活動の質の向上を目指す。
------------------	---

2 学校教育目標	教育指針 「はすむ生命 ひかる生命 ～君と生きるために～」 めざす生徒像「より良い人生を送るために、学び、考え、挑戦する生徒」⇒「清明力」の育成 主体性・思考力・創造力・計画力・実行力 「より良い社会を創るために、自他を尊重し、協働する生徒」⇒「清明力」の育成 自己肯定力・寛容性・規律性・対話力・発信力
----------	--

3 本年度の重点目標	① 生徒が主体的に学び、考える授業を目指す。 ② 生徒が自分の夢や目標に向けて挑戦するキャリア教育に取り組む。 ③ 社会人として必要なマナー、モラルを育成する。 ④ 豊かな心を育む教育の充実を図る。 ⑤ 総合学科の特色を活かしたカリキュラムを構築する。 ⑥ 学校における働き方改革を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目			最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		
				達成度 (評価)		実施結果
●学力の向上	○授業の充実、改善	○生徒が「学び」、「考え」、「挑戦する」授業を目指して、生徒の授業満足度を80%以上とする。	・各学期に1回の公開授業週間を設定し、教員が指導方法を学び、考える機会とする。 ・各教科で1回以上の研究授業を実施し、授業の工夫、改善を促進する。	A	・生徒の授業満足度は、3学期の調査で93%であった。 ・授業アンケートで授業ことの「清明力」の育成状況を把握、分析し、授業の工夫、改善を行った。 ・各学期に1回(年間3回)、公開授業週間を設定し、授業参観を行った。 ・2学期に各教科・系列で研究授業を行い、授業者が参観者の意見、感想をまとめた報告書を作成し、全教職員で共有した。	各教科主任 各系列主任
	○「学びの基礎診断」の活用による学力の向上	○上位～中位の生徒数が前年度より増加し、中位～下位の生徒数が前年度より減少する。	・「学びの基礎診断」を活用し、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを確立する。 ・測定ツールにより生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の充実、改善を図る。		B	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○より良い社会を創るために自他を尊重し、協働する「清明力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上の項目が高まったと自己評価する生徒の割合を80%以上とする。	・人権教育に関する講演会を実施する。 ・授業や講演会で情報モラル教育を行う。 ・「道徳教育の全体計画」に基づいて授業を行う。	B	・「清明力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上が高まったと自己評価する生徒の割合は、3学期の調査で51%であった。 ・LHRでネットトラブルの危険性について授業を実施し、注意喚起を行った。 ・人権教育講演会を学習用PC、電子黒板を用いて実施した。 ・各教科で道徳教育全体計画に基づいた授業を実施した。	人権教育担当者 情報モラル教育担当者 道徳教育担当者 各系列主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対応等)について組織的対応ができていますと回答した教員の割合を90%以上とする。	・生徒の様子を常に観察し、小さな兆候も見逃さない。 ・いじめアンケートを年2回以上実施する。 ・学年、系列の縦・横の情報共有を密にし、教育相談との連携を図る。		B	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を90%以上とする。	・保健だより等で食に対する意識を高める。 ・食に関する意識調査を実施する。	A	・毎学期、食に対する意識調査を行い、「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合は全て99%であった。	保健主事 養護教諭 食育教育担当者
	○健康に関する自己管理能力の育成	○健康診断後の受診率が前年度を上回る。	・健康診断後の受診勧告書を生徒に渡し、受診を促す。 ・保健委員が中心となり健康観察や教室の換気、消毒等を行い、感染症等の予防対策を行う。		A	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。 ・部活動休業日を設定する。 ・学校開庁日を設定する。 ・業務削減(縮減)を検討・実行する。	B	・新型コロナウイルスの影響による学校行事の縮小や中止、部活動の自粛、大会・コンテストの中止等があり、時間外勤務は前年度より20%減少した。 ・定時退勤日における定時退勤の呼びかけ、部活動休業日設定の促進、効果的な活動指導、学校行事や会議の厳選を行った。 ・業務の削減(縮減)は、具体的に推進することができた。	管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		
				達成度 (評価)		実施結果
○進路指導	○進路希望の実現	○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%を目指す。 ○就職内定率100%を目指す。	・進路検討会を充実させ、生徒の希望、適性に応じた的確な進路指導を行う。 ・受験指導、面接指導の充実を図る。	B	・第一志望の大学・短大・専門学校の合格率は100%ではなかったが、全員が進路を決定することができた。 ・企業の人事担当者との連絡を密に行い、企業情報を生徒に提供し、希望、適性に応じた進路指導を行った結果、就職内定率100%を達成した。 ・面接指導を全職員で行い、面接のスキルを向上させることができた。	進路指導主事 3年学年主任、担任 各系列主任
◎総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築	◎1年次：職業観の育成による進路を見据えた系列の選択 ◎2年次：系列の特色を活かした地域との交流及び外部機関等との連携 ◎3年次：系列の学びの集大成としての課題研究の充実	◎自分の「系列選択」に満足する生徒の割合を80%以上とする。 ◎「清明力」の10の資質・能力のうち、5つ以上の項目が高まったと自己評価する生徒の割合を80%以上とする。	・1年次は「系列」の説明や体験授業、職業に関する進路ガイダンス、進路見学会等を実施する。 ・2年次は地域交流や外部機関等と連携したプログラムを実施する。 ・3年次は系列の学びを深め、集大成としての課題研究を実施する。		B	・自分の「系列選択」に満足する生徒の割合は、3学期の調査で79%であった。 ・「清明力」の10の資質・能力のうち、5つ以上が高まったと自己評価する生徒の割合は、3学期の調査で81%であった。 ・インターンシップに代わる活動として、神埼市役所の協力を得て、神埼市の現状と課題について調査研究を行い、11月に発表会を行った。 ・1月の総合学科発表会(オンライン形式)で各系列3年生の課題研究の成果発表を行った。生徒アンケートでは、「大変良かった」が84%、「良かった」が16%であった。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>○ 育成を目指す資質・能力のシラバスへの明記、公開授業リストの作成と配布、参観者の意見・感想をまとめた研究授業報告書の共有、授業アンケートによる資質・能力の育成状況の把握と分析などにより、授業改善と教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進することができた。 ○ 10の「清明力」のうち、半数以上が高まったと自己評価する生徒の割合が61%となり、目標の80%は達成できなかったが、多くの生徒が自分の成長を感じる事ができた。 ○ 授業及び系列選択の満足度が90%を超え、基礎学力と専門的な知識技能を育成する授業、意欲を高め進路実現を目指す各系列の教育活動に、ほとんどの生徒が目標を持って真剣に取り組んだ。 ○ 1、2年次の基礎学力向上、人権教育、情報モラル教育、進路実現のためのキャリア教育の充実、課題研究及び地域との交流・連携活動の進化・発展について、今年度の結果を検証し、改善すべき点を踏まえて更に取組を進めていく。</p>
----------------	--